

# 高度離職者訓練の取り組み事例

## 就職支援活動の取り組み

ポリテクカレッジ福山 電子技術科  
(福山職業能力開発短期大学校)

鍛冶原克之・稲森邦一・藤井亮一  
春口良博・市田憲治

対する指導が終了したのは、9月末であった。

### 1. はじめに

平成14年度の新規事業として、高度離職者訓練「エレクトロニクス・エキスパート科」を担当することになった。このコースは平成14年4月から平成15年3月までの1年間の期間であり、高度な専門分野の訓練を行うことにより就職に結び付けるものである。就職率の目標値は80%以上と設定されていた。この目標値を達成するために、当科の教官全員で高い就職率の達成を念頭におきながらカリキュラム、就職支援活動の検討を行い、コース途中における軌道修正を繰り返しながら取り組んだ。結果は、平成15年3月末の修了時点で80%の就職率を達成した。本報告は、就職支援活動の取り組み内容と、これを通して学んだこと、反省すべきこと等を中心にした事例報告である。

### 2. 就職支援活動

#### 2.1 履歴書、職務経歴書の作成指導

就職率80%以上を達成するためには早期からの就職支援活動が必要と考え、8月末から開始した。まずは、履歴書、職務経歴書の作成指導を能力開発支援アドバイザーをお願いした。初回は、訓練生全員に対して指導を行い、その後、個別指導を行った。能力開発支援アドバイザーは、各種業務を担当しており、不在の日もあるため、空き時間を調整していただき、その空き時間に指導をお願いした。全員に

#### 2.2 職務経歴書の完成を目指して

9月末からは、職業相談員に個別相談および指導をお願いした。個別指導には、当科の教官1名も参加した。参加した理由は、訓練生の就職意欲・就職活動の動向を把握することにより、打つ手のタイミングを逸しないためであった。さらには、就職支援活動のノウハウを習得したいとの理由もあった。

職業相談員は囑託であるため、相談等を実施できる日は、1ヵ月当たり14日に限られていた。また、当科の教官も専門課程の授業等があるため、専門課程の授業をやり繰り返して、職業相談員の個別指導を優先した。個別指導の内容は、職務経歴書を完成させることであった。この作業は、訓練生個人の過去の職務内容を細かく聞き出し、そのなかから自己PRに使える内容を見いだすものである。1回の指導では、満足のいくものまでは到底無理で、個人差もあるが、個別指導を2～3回は繰り返さないと完成しなかった。完成したのは、12月に入ってからであった。

#### 2.3 個別面接指導

コースの修了日までが後3ヵ月少々と迫り、また、就職活動もいまひとつであったため、われわれも焦りを感じてきた。このような状況下で、職業相談員による個別面接指導も開始した。もちろん当科の教官も参加し、状況把握等に努めた。今までに準備してきた職務経歴書と、その完成までの間に報告して

## 職務経歴書の例

職務経歴書 氏名 (エレクトロニクスエキスパート科 ××××)

職務要約	職務経歴		
	時 期	主 要 職 務	役 職
<p>○化学工業薬品・工業用ポンプ等の営業</p> <p>○電子回路設計 (マイコン制御システムの開発)</p> <p>○工作機械・専用機等の制御回路設計</p> <p>○電子回路設計 (マイコン応用システムの開発)</p> <p>○自社製品 (精密木工機械) の制御</p> <p>○新製品の開発 (組込マイコン制御装置の開発)</p>	昭和××年10月 (約2年間)	××××株式会社 営業部入社。 ××××向け 水処理薬品 (高分子凝集剤)・工業用水ポンプ (××××製作所製) および保守部品等の営業を行う。	
	昭和××年4月 (1年間)	以前より電子回路に興味があり、設計の仕事を希望していたので同社を退職し、××××校・電子機器科にて電子工学・無線工学・マイコンシステム等を学ぶ。	
	昭和××年4月 (約7年間)	株式会社 ××××製作所 電子課入社 当社にて電子課を新設していただき、3人のメンバーでスタートする。 調理品搬送ロボット、インデックステーブルコントローラー、XYテーブルコントローラー等の自社製品をマイコンシステムで開発。 また、主力の自動車関連工場向け工作機械・食品加工機械等の専用機はPLCで制御した。(5年間ほど経験) 産官で起動した地域システム開発事業で、家具等の部材を着色する自動調色装置を開発した。	
	平成××年4月 (約9年間)	株式会社 ××××製作所 技術部電子課入社 当社は精密木工機械のメーカーで、その電気制御部門にマイコンシステムの開発リーダーとして配属されました。主な業務は、客先打ち合わせから回路設計・プログラミング・課内技術指導・配線組み立て作業・現地デバッグ等を行い、小型汎用機から多軸数値位置決め制御のプレカット工場向けオンラインNC加工機まで制御しました。 マイコンシステムの開発では、8ビット・16ビットマイコンを使用した基板を設計し、数値位置決め制御を中心に周辺としてCRT制御・タッチパネル制御・通信制御等を行った。 新分野の開発機として、プリント基板を小切りにする装置、パネルカッティングマシンを制御し、国内外で受注した。	
これからやってみたい仕事の方向	<p>マイクロコンピュータ応用システムの開発に16年従事してきましたが、その経験を生かしてさらに高度なシステム開発に挑戦したいです。また、今までの経験や知識から、人材の育成に参加できればと思います。</p>		
スキル要約	<p>マイコンハードウェア回路設計ができます。 マイコンソフトウェア製作 (アセンブラ・C言語) ができます。 電気回路設計CADの経験があります。 パソコン操作 (WORD, EXCEL, VB) の経験があります。 PLCプログラミングの経験があります。</p>		
学 歴	学 校 名	学 部	時 期
最 寄 り 駅	××××駅	教育学部	昭和××3月卒業
希 望 地 域	福山市内、および周辺市町		
生 年 月 日	××/××/××		

もらった情報をベースにし、面接試験を想定した自己PRの仕方を指導していただいた。また、訓練生の希望職種、職歴、地理的条件や適性等も把握できていたため、ハローワークから提供された求人情報のなかから本人に適していると思われる企業を紹介した。就職試験を受ける日程が決まったときは、必ず事前に個別面接指導を行った。就職未内定者については、この活動を3月中旬まで続けた。

### 3. 就職活動に必要なこと

約半年間の就職支援活動の経験上から、就職活動を行うために必要な事項についてまとめると以下のとおりである。

① 就職に対する熱意；当然のことながら、これが

無いと就職は難しい。中高年の訓練生の場合は、この問題は少なかった。しかし、若年者層の訓練生は、意外と呑気であった。いざとなれば直ぐにでも就職できるとの思い込みがあったのかもしれない。修了まで残すところ後3ヵ月となった頃には、学務援助課の協力を得て、1週間ごとの「就職活動報告書」の提出を義務付け、就職活動への意欲を喚起した。一方、未内定の訓練生に対しては、本人に適していると思われる求人情報を個別に提供し続けることにより、就職活動の動きを加速させた。

② 自己PR；最初の個別指導で「自己PRをしてください。」と尋ねると、大抵の訓練生は「ありません。」との返事であった。この状況は、専門課程の学生の場合と全く同じであった。この状況を打破するために、前述「2.2 職務経歴書の完成を目指して」の

活動のなかで、本人の持っている「良い処」をできるだけ聞き出し、そのなかから「これぞ」と思われる内容を自己PRとしてまとめていった。もちろん、「良い処」とは、企業にとって必要とされる特性である。この作業には、労力、時間を最も要した。しかし、最後の個別面接指導の頃には、どの訓練生もすばらしい自己PRができるようになった。訓練生の自己PRを聞いていると、指導する側も「これで面接試験に合格できる！」との気分になった。とは言え、就職試験に失敗する事例もたくさんあった。この失敗の原因は定かでないが、企業の求める人材と訓練生の「良い処」が合わなかったため、決して自己PRの問題ではないものと確信していた。

いずれにしても、就職試験で最も重視されるのは面接試験であり、この面接試験で「いかに自己PRができるか」が決め手と考えている。したがって、訓練生の持つ最も強力な自己PRを見いだすことが重要なことで、マニュアル本やハウツー本をいくら読んでも就職に結び付けることは困難であろう。

③ 職務経歴書；訓練生の職務経験を整理することは、重要である。そのプロセスのなかで、企業に貢献したこと、改善したこと、提案したこと、習得したこと、頑張ったこと等を聞き出すことが最も大事なことである。しかし、これらのことを最初に尋ねると、返事は「何もありません。」であった。何年、何十年との長い職務経歴をして「何もありません。」ということは絶対無いはずである。過去の職務経歴のなかには、企業が求める特性を必ず発揮しているはずである。一般的な表現では「やる気」、「忍耐力」、「積極性」、「協調性」、「創造性」等々である。したがって、過去の職務について細かく、また、繰り返し聞き出すと、そのなかから立派な内容が出てきた。本人は、「大したことではない」と思っていたようだが、自己PRに使える内容は意外と多くあった。この状況は、専門課程の学生と全く同じである。当然、専門課程の学生の場合は、職務経歴の代わりに、小、中、高校を通した学生生活のなかでの経験である。

過去の職歴のなかから自己PRに使える内容を聞き出すことは、時間と忍耐を必要とした。しかし、「これは」と思われる内容を聞き出したときは、宝物を探し出したような喜びを感じた。就職支援活動とは、まさにこのプロセスであることを学んだ。

④ コースの専門性；本コースの訓練生の大半は、「電気」に関する職歴を持っていなかった。何故なら、地方都市が故に、定員（20名）確保上、どうしても訓練生の職歴の幅を広げざるを得なかった。実際、

表1 内定状況

	内 定 先	内 定 月	関連
1	製造業（その他製造業）	H14, 10月	無し
2	製造業（その他製造業）	H14, 10月	有り
3	卸売業・小売業	H15, 1月	無し
4	製造業（金属製品）	H15, 1月	有り
5	卸売業・小売業	H15, 1月	無し
6	サービス業	H15, 2月	有り
7	製造業（電気機械）	H15, 3月	有り
8	製造業（金属製品）	H15, 3月	有り
9	製造業（一般機械）	H15, 3月	有り
10	サービス業	H15, 3月	無し
11	製造業（電気機械）	H15, 3月	有り
12	サービス業	H15, 3月	無し
13	電気・ガス・水道・熱供給	H15, 3月	有り
14	電気・ガス・水道・熱供給	H15, 3月	有り
15	製造業（その他製造業）	H15, 3月	有り
16	製造業（精密機械）	H15, 3月	有り
17	卸売業・小売業	H15, 4月	無し
18	製造業（電気機械）	H15, 4月	有り
19	サービス業	H15, 6月	有り
20	未内定		

表2 内定率（H15年）

	3月	4月	6月
内定率	80%	90%	95%

表3 コースの専門性と就職先の関連性

関連有り	70%	関連無し	30%
------	-----	------	-----

「電気」に関する職歴を持つ訓練生は数人で、他はサービス業、あるいは電気とは無関係の製造業等であった。

本コースの専門性は、残念ながら、即就職に結びつくことはなかった。それは、専門分野の求人条件として、必ず経験年数を必要としたからであった。何と云っても、過去の職務経験を生かすことが強力な武器であった。しかしながら、コースの専門性と求人内容は一致しないが、業務の背景として専門性があつたほうが望ましい場合もあつた。これは、訓練生から見ると、求職の範囲が広がつたことになる。このようなケースで内定に至つた場合が多かつた。したがつて、本コースで学んだことは決して無駄ではなく、それ以上に、無関係な分野から「電気」の分野を目指して努力したその姿勢がアピールポイントとして重要となつた。したがつて、求職票には、「デジタル電子回路、アナログ電子回路を勉強中」といった内容を付記してもらつた。

#### 4. むすび

本コースは、初めての取り組みであつたため、カリキュラム内容から就職支援活動に至るまですべて試行錯誤の連続であつた。毎週水曜日の午後で開催した科のミーティングで議論し、良いと思われるものは取り入れ、問題があればできるだけ早く対処する方向で取り組んできた。とはいえ、必ずしもスムーズに進んだとはいえず、途中何回か意見の衝突もあつた。しかし、当科の教官の思いは1つ、すなわち、就職率をいかにして上げるかであり、結果的には良い方向でまとまつた。この取り組みの副産物として、強固なチームワークが得られたことは大きかつた。しかしながら、教官の時間的負担が大きく、専門課程や各種事業との掛け持ちで対応するには限界を感じた。成果を出すためには、それなりの体制が必要と痛感した。

反省点としては、就職支援活動が当初の計画どお

り進まなかつたことである。これは、個別指導に予想外の時間を要したからであつた。したがつて、就職活動のスタートが遅れてしまつた。この反省点を踏まえ、平成15年度は、6月から就職支援活動を開始し、9月からは本格的な個別指導を展開する予定である。

ここ数年来、就職難の時代といわれるが、しかし、求人数はそれなりにある。就職できるか否かは、求職者の持っている「良い処」を、いかにして企業に説明できるかどうかで決まると思ふ。この「良い処」は、本人にとって気がつきにくいものであるから、それなりの経験者が、企業の立場で「良い処」を引き出す手伝いをする必要がある。これがまさにキャリアコンサルティングであろう。しかし、これは訓練生と指導者との信頼関係のなかで実施できるものであるから、だれにでもできるものではない。ましてや担当者が日替わりの個別指導を行うとか、教官の片手間として対応できるものでもない。また、だれにでも通用するようなマニュアルに依存するものでは対処できない。地道な支援ではあるが、訓練生の立場に立つて、訓練生のために、できる限りすべてを聞き出し、企業が求める特性に近いものを整理して対応すれば、就職に結びつく結果が得られるものと思つている。

